

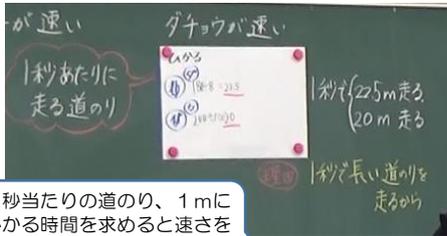
まとめる段階

「授業に取り入れる手立て」の実践例です。



(7) 学習内容や問題解決の過程をまとめることができるように、児童の思考の流れが分かる板書を行う。

単元名 速さ（6 学年）



1秒あたりの道のり、1mに掛かる時間を求めると速さを比べることができたよ。

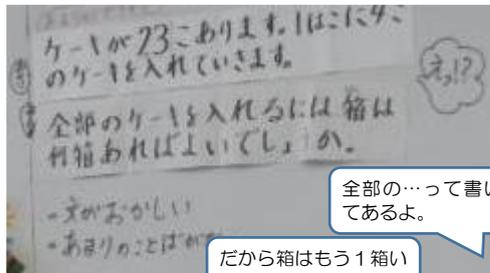
単位量当たりの考えと公倍数の考えを整理したり、本時のキーワードを板書したりすることで、まとめにつなげることができるようにした。

目指した児童の姿

新たに得た知識や技能を、既習の内容や日常の場面などに関連付けて捉える姿。

(1) 「めあて」や「見通し」の内容を振り返る場を設定する。

単元名 あまりのあるわり算（3 学年）



だから箱はもう1箱いるんだ！

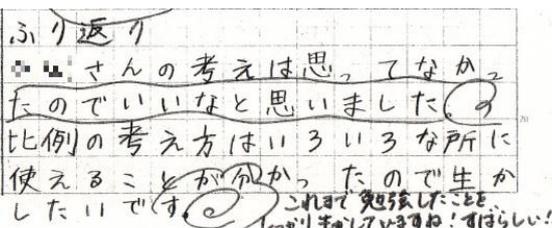
余りをそのままにせず、もう1箱必要だと言うことを確認するために、もう一度、問題文や「めあて」を振り返った。全部のケーキを箱に入れなければいけないことを児童と一緒に確認した。

目指した児童の姿

どのようなめあてがあつて、どのように解決したのかを振り返り、学習内容を確実にする姿。

(ウ) 振り返りの視点を明確にする。

単元名 比例（6 学年）



○○さんの考えはいい考えだったね！

次の3つの観点を示し、振り返らせた。

「今日分かったこと（発見）」

「友達のよいところ（きらり）」

「何を生かして今日の学習をしたか。これから何に生かすか（生かす）」

目指した児童の姿

学習を振り返り、新たな問いを見いだそうとする姿。